

科目名	理学療法科学特論Ⅰ
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春セメスター
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	解剖学, 生理学, 神経科学, 運動学および運動生理学を中心とした理学療法の基礎学問を学び, 実験的な研究手法を用いて理学療法分野の基本となる課題を解決するため, また理学療法士の養成教育, 生涯学習における新しい教育手法, 教育効果を証明するための科学的な検証技術を学修します.
到達目標	1. 実験的な研究手法による研究課題, 新しい理学療法教育に関連する先行研究を探索し理解する. 理学療法のトピックスについて, 先行研究の抄読や発表, ディスカッションを通じて, 課題を明確にし, 解決するための具体的方策を説明できる. 研究テーマの背景および目的, それを解決するための研究手法を発表し, ディスカッションできる.
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回: オリエンテーション, 教員紹介 教員全員 第 2 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 根地嶋誠 第 3 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 根地嶋誠 第 4 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 大城昌平 第 5 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 矢部広樹 第 6 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 高橋大生 第 7 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 矢倉千昭 第 8 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 有菌信一 第 9 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 有菌信一 第 10 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 吉本好延 第 11 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 吉本好延 第 12 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 金原一宏 第 13 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 金原一宏 第 14 回: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 俵祐一 第 15 回: まとめ 俵祐一 第 1 回目の授業で, 授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し, 授業全体のプランニングをします. 事前に各自の関心テーマを考え, 第 1 回目の授業に参加してください. 第 2 回目以降は, 授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行っていきます. 研究進捗状況報告会, 研究計画報告会の開催前の授業では, 受講者と教員が全員参加し, 各自の研究課題, 研究計画の発表会を行います. ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 2～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 2～15 回

学修方法	事前の文献レビュー，プレゼンテーション，ディスカッションにて行う。				
評価方法	課題の取り組み（50％），プレゼンテーション（50％）				
課題に対するフィードバック	各回のプレゼンテーション時にフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各回，各自のテーマに関する先行研究のレビュー等，発表に必要な準備を 60 分程度はすること。				
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション科学研究科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します				

科目名	理学療法科学特論Ⅱ																														
科目責任者	金原 一宏																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋																														
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる																														
科目概要	解剖学、生理学、神経科学、運動学および運動生理学を中心とした理学療法の基礎学問を学び、実験的な研究手法を用いて理学療法分野の基本となる課題を解決するため、研究機器の測定方法、データの読み方および解析手法など、実験的研究に必要な技術について学修します。																														
到達目標	1. 理学療法科学特論Ⅰで学んだ、実験的な研究方法で用いられる測定機器の基本原理と測定方法、データの信頼性と妥当性の検証について説明できる。 2. 実験的研究法による簡単な研究計画を作成、データを測定し統計学的分析を行い、研究結果をまとめ、発表、ディスカッションができる。																														
授業計画	<担当教員名> 金原一宏、大城昌平、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一、矢部広樹、高橋大生、坂本淳哉 <授業内容・テーマ等> <table border="0"> <tr> <td>第1回 : オリエンテーション、教員紹介</td><td>金原一宏, 他</td></tr> <tr> <td>第2回 : 測定機器の学修と研究計画の作成①</td><td>俵祐一, 他</td></tr> <tr> <td>第3回 : データ測定①</td><td>俵祐一, 他</td></tr> <tr> <td>第4回 : データ分析と発表準備①</td><td>有菌信一, 他</td></tr> <tr> <td>第5回 : 測定機器の学修と研究計画の作成②</td><td>有菌信一, 他</td></tr> <tr> <td>第6回 : データ測定②</td><td>吉本好延, 他</td></tr> <tr> <td>第7回 : データ分析と発表準備②</td><td>吉本好延, 他</td></tr> <tr> <td>第8回 : 測定機器の学修と研究計画の作成③</td><td>矢部広樹, 他、</td></tr> <tr> <td>第9回 : データ測定③</td><td>根地嶋誠, 他、</td></tr> <tr> <td>第10回 : データ分析と発表準備③</td><td>坂本淳哉</td></tr> <tr> <td>第11回 : 測定機器の学修と研究計画の作成④</td><td>坂本淳哉</td></tr> <tr> <td>第12回 : データ測定④</td><td>坂本淳哉</td></tr> <tr> <td>第13回 : データ分析と発表準備④</td><td>坂本淳哉</td></tr> <tr> <td>第14回 : 発表とディスカッション</td><td>矢倉千昭, 他</td></tr> <tr> <td>第15回 : まとめ</td><td>大城昌平, 他</td></tr> </table> 第1回目の授業で、授業参加者の関心のある研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。 第2回目以降は、学内にある機器の測定方法を学び、授業プランに沿って実際に簡単な研究計画を立て、データを測定し、発表とディスカッションを行います。 研究進捗状況報告会、研究計画報告会の開催前の授業では、受講者と教員が全員参加し、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。余裕を持って授業計画を立ててください。 講義では、ディスカッションや演習がありますので遠隔地授業の対象にはなりません。 *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回	第1回 : オリエンテーション、教員紹介	金原一宏, 他	第2回 : 測定機器の学修と研究計画の作成①	俵祐一, 他	第3回 : データ測定①	俵祐一, 他	第4回 : データ分析と発表準備①	有菌信一, 他	第5回 : 測定機器の学修と研究計画の作成②	有菌信一, 他	第6回 : データ測定②	吉本好延, 他	第7回 : データ分析と発表準備②	吉本好延, 他	第8回 : 測定機器の学修と研究計画の作成③	矢部広樹, 他、	第9回 : データ測定③	根地嶋誠, 他、	第10回 : データ分析と発表準備③	坂本淳哉	第11回 : 測定機器の学修と研究計画の作成④	坂本淳哉	第12回 : データ測定④	坂本淳哉	第13回 : データ分析と発表準備④	坂本淳哉	第14回 : 発表とディスカッション	矢倉千昭, 他	第15回 : まとめ	大城昌平, 他
第1回 : オリエンテーション、教員紹介	金原一宏, 他																														
第2回 : 測定機器の学修と研究計画の作成①	俵祐一, 他																														
第3回 : データ測定①	俵祐一, 他																														
第4回 : データ分析と発表準備①	有菌信一, 他																														
第5回 : 測定機器の学修と研究計画の作成②	有菌信一, 他																														
第6回 : データ測定②	吉本好延, 他																														
第7回 : データ分析と発表準備②	吉本好延, 他																														
第8回 : 測定機器の学修と研究計画の作成③	矢部広樹, 他、																														
第9回 : データ測定③	根地嶋誠, 他、																														
第10回 : データ分析と発表準備③	坂本淳哉																														
第11回 : 測定機器の学修と研究計画の作成④	坂本淳哉																														
第12回 : データ測定④	坂本淳哉																														
第13回 : データ分析と発表準備④	坂本淳哉																														
第14回 : 発表とディスカッション	矢倉千昭, 他																														
第15回 : まとめ	大城昌平, 他																														

学修方法	院生間で課題解決（論文の検索、研究方法の吟味、データの測定と解析）を図る				
評価方法	課題の取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）				
課題に対するフィードバック	各担当教員より、発表とディスカッションの際、フィードバックする				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	測定機器の原理、先行研究での測定方法、信頼性と妥当性の検証などを理解し、測定を実施する				
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します				

科目名	理学療法科学特論演習
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取り組むことができる
科目概要	理学療法科学特論をふまえ、理学療法の対象となる事象について科学的に検証できるように研究計画立案する。研究テーマに関連する先行研究の収集および批判的吟味を行い、概念枠組みを作成しながら、テーマおよび周辺状況の現状と課題を、グループディスカッションを通じて明らかにする。また、研究仮説を検証するための方法論を検討し、研究計画書の作成を行う。
到達目標	1. 自身の研究テーマに関する文献を批判的に吟味して理解し、テーマを設定する。 2. 研究テーマの現状と課題を明らかにし、概念枠組みから研究計画書を立案する。 3. 研究計画書（倫理委員会申請書を含む）を作成し、研究の実施計画を立てる。
授業計画	<担当教員名> 矢部広樹、根地嶋誠、大城昌平、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、金原一宏、俵祐一（すべての授業を全教員で担当する） <授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの設定、関連図の作成(1) 第3回：研究テーマの設定、関連図の作成(2) 第4回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(1) 第5回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(2) 第6回：先行研究の調査と整理(1) 第7回：先行研究の調査と整理(2) 第8回：先行研究の調査と整理(3) 第9回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(1) 第10回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(2) 第11回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(3) 第12回：研究計画の作成(1) 第13回：研究計画の作成(2) 第14回：予備研究と倫理申請書の作成(1) 第15回：予備研究と倫理申請書の作成(2) *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	文献レビュー，プレゼンテーション，ディスカッションを実施する。				
評価方法	課題のプレゼンテーション（30%）、研究計画の立案（20%）、研究計画書（倫理委員会申請書を含む）の完成（30%）、予備実験の実施（20%）				
課題に対するフィードバック	各回のプレゼンテーション時にフィードバックを行う。計画書等の文書等の提出毎にフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索、精読し、独創的な研究テーマや研究方法について、知識及び理解を進めること。授業を通じ、研究テーマおよび研究方法を検討し、研究計画書および実験を進めてください。				
オフィスアワー	科目責任者：矢部広樹（リハビリテーション科学研究科） 研究室：3516 時間帯：授業の際に提示します				

科目名	理学療法開発学特論Ⅰ
科目責任者	吉本 好延
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法について、臨床での疑問、課題を解決するための科学的理論を背景とする検証技術を学修し、新たな理学療法の評価および治療法を開発するための基本的な基盤を作ります。さらに、質的および量的研究、ケーススタディ、観察および介入研究などの臨床研究に必要な研究方法、効果検証を学修します。
到達目標	2. 実験的な研究手法による研究課題、新しい理学療法教育について、先行研究を探索し、研究の背景および目的、それを解決するための研究手法を発表し、ディスカッションできる。 「臨床研究に関する倫理指針」(厚生労働省)を通じて、臨床研究者に対する倫理教育が理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回 オリエンテーション, 教員紹介 教員全員 第2回 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 吉本好延 第3回 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 吉本好延 第4回 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 吉本好延 第5回 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 大城昌平 第6回 文献紹介, 課題発表, ディスカッション 大城昌平 第7回 責任ある研究行為 根地嶋誠 第8回 人を対象とした研究 根地嶋誠 第9回 責任ある研究行為 矢倉千昭 第10回 研究の安全性 矢倉千昭 第11回 実験動物の取り扱い 金原一宏 第12回 米国臨床試験実施基準(GCP) 金原一宏 第13回 米国被験者保護局(OHRP) 有菌信一 第14回 国内 IRB と米国 OHRP 俵祐一 第15回 まとめ 吉本好延 ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、各授業テーマについて事前学習を行い積極的な授業参加をお願いします。				
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）				
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	時間割を参照して、各授業におけるテーマを事前に学習し、授業に参加してください。				
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17 時～18 時				

科目名	理学療法開発学特論Ⅱ
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法について、臨床での疑問、課題を解決するための科学的理論を背景とする検証技術を学修し、新たな理学療法の評価および治療法を開発するための基本的な基盤を作ります。さらに、質的および量的研究、ケーススタディ、観察および介入研究などの臨床研究に必要な研究方法、効果検証を学修します。
到達目標	実験的な研究手法による研究課題、新しい理学療法教育について、先行研究を探索し、研究の背景および目的、それを解決するための研究手法を発表し、ディスカッションできる。
授業計画	俵祐一、有菌信一、大城昌平、金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、矢部広樹、神津玲 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回 オリエンテーション 俵祐一、他 第2回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 有菌信一、他 第3回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 有菌信一、他 第4回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 大城昌平、他 第5回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 矢部広樹、他 第6回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 矢部広樹、他 第7回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 矢倉千昭、他 第8回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 吉本好延、他 第9回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 金原一宏、他 第10回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 根地嶋誠、他 第11回 理学療法のトピックス、研究計画と実際 神津玲 第12回 理学療法のトピックス、研究計画と実際 神津玲 第13回 理学療法のトピックス、研究計画と実際 神津玲 第14回 理学療法のトピックス、研究計画と実際 神津玲 第15回 まとめ 俵祐一、他
	第1回目の授業で、授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。第2-15回目までは、授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行います。 ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	第 1 回目の授業で、授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第 1 回目の授業に参加してください。第 2-15 回目までは、授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行います。				
評価方法	課題の取り組み (50%)，プレゼンテーション (50%)				
課題に対するフィードバック	論文の検索，研究方法の吟味，データの測定と解析，発表とディスカッション				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業課題，研究課題に関係する論文などを探索し，理学療法に関する研究領域を学び，修士研究のテーマ，研究方法を検討する。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3507 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（yuichi-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。				

科目名	理学療法開発学特論演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる
科目概要	理学療法開発学特論を踏まえて、臨床理学療法の発展に貢献する評価や治療の開発を目的とした研究計画を立案する。研究テーマに関連する先行研究の収集および批判的吟味を行い、関連図を作成しながら、各分野の現状と課題を、グループディスカッションを通じて明らかにする。また、研究仮説を検証するための方法論を検討し、研究計画書の作成を行う。
到達目標	1. 自身の研究テーマを設定し、関連図を作成する。 研究テーマに関連する先行研究を調査し、現状と課題を明らかにする。 研究仮説を明らかにするための研究計画書を作成し、倫理申請の準備を行う。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> <担当教員名> 吉本好延、大城昌平、矢倉千昭、有菌信一、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一、矢部広樹、高橋大生（指導教員が中心に授業を展開し、教員全員が参加する検討会が行われる） 第1回：オリエンテーション 指導教員 第2回：研究テーマの設定、関連図の作成(1) 指導教員 第3回：研究テーマの設定、関連図の作成(2) 指導教員 第4回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(1) 指導教員 第5回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(2) 指導教員 第6回：先行研究の調査と整理(1) 指導教員 第7回：先行研究の調査と整理(2) 指導教員 第8回：先行研究の調査と整理(3) 指導教員 第9回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(1) 教員全員 第10回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(2) 教員全員 第11回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(3) 教員全員 第12回：研究計画の作成(1) 指導教員 第13回：研究計画の作成(2) 指導教員 第14回：予備研究と倫理申請書の作成(1) 指導教員 第15回：予備研究と倫理申請書の作成(2) 指導教員 *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、積極的な授業参加をお願いします。				
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）				
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習は、自身の興味関心のある分野の論文等を探索し、研究テーマの現状を明らかにしてください。事後学習は、一連の研究の流れを踏まえて、独創的研究テーマの設定および研究仮説を明らかにするための研究方法を検討し、研究計画書を完成させてください。				
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17 時～18 時				

科目名	理学療法学特別研究
科目責任者	有菌 信一
単位数他	8 単位 (120 時間) 選択 通年
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 7. 学際かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる
科目概要	研究計画書にもとづき、データ集や論文作成など研究プロセスを経験し、科学的根拠に基づいた理学療法評価・治療の立案を目的とした臨床理学療法研究を行い、修士論文を作成する。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる
授業計画	1 年次春semester : <授業内容・テーマ等> リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて先行研究論文の吟味や討論を行い研究課題について焦点を絞る。 <評価方法> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%) 1 年次秋semester : <授業内容・テーマ等> 春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。 <評価方法> 発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%) 2 年次春semester : <授業内容・テーマ等> 研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。 <評価方法> 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%) 2 年次秋semester : <授業内容・テーマ等> 指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。 <評価方法> 論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の貞節性 (30%) *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回

学修方法	個別指導と、院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。				
評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。				
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や論文作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。				
オフィスアワー	各指導教員のオフィスアワー				

科目名	理学療法教育学課題研究
科目責任者	吉本 好延
単位数他	8 単位 120 時間 選択 通年
科目の位置付	新規性の高い研究課題を自ら発見し、先行研究をレビューし、独創的な研究テーマを設定して、自立して研究計画を立案することができる
科目概要	理学療法現場教育が直面している問題点を明らかにしたり、問題点の改善を目的とした解決策を提案・実践したりすることで、現場教育が抱える問題点に対応できる能力を育成する。本科目の学修のプロセスは、①理学療法士の養成校教育・臨床教育の現場が抱える問題点を抽出したり、問題点の改善を目的とした改善策を提案・実践したりする、②「指導教官に指導を受け教育学課題研究報告書を作成する、③教育学課題研究報告書の内容を報告会で発表する。
到達目標	1. 教育課題研究を行う。 2. 教育学課題研究報告書を作成する。 3. 教育学課題研究報告書の内容を報告会で発表する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 吉本好延、矢倉千昭 第1-2回：オリエンテーション 指導教員 第3-4回：課題研究の検討・先行研究の検索および整理(1) 指導教員 第5-6回：課題研究の検討・先行研究の検索および整理(2) 指導教員 第7-8回：フィールドリサーチ(1) 指導教員 第9-10回：フィールドリサーチ(2) 指導教員 第11-12回：フィールドリサーチ(3) 指導教員 第13-14回：フィールドリサーチ(4) 指導教員 第15-16回：教育学課題研究計画書の作成(1) 指導教員 第17-18回：教育学課題研究計画書の作成(2) 指導教員 第19-20回：教育現場での課題研究の実践(1) 指導教員 第21-22回：教育現場での課題研究の実践(2) 指導教員 第23-24回：教育現場での課題研究の実践(3) 指導教員 第25-26回：報告書作成の指導(1) 指導教員 第27-28回：報告書作成の指導(2) 指導教員 第29-30回：報告書作成の指導(3) 指導教員 *個別指導と院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。 2コマ/回とする。 *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第3回～6回、第15～30回 実務家教員や実務家による授業：第3回～6回、第15～30回 実地での体験活動を伴う授業：第7～14回

学修方法	授業では講義とディスカッション、教育現場での実践活動をもとに進めます。				
評価方法	課題への取り組みと発表（90%）、ディスカッションへの参加状況（10%）				
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や報告書作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。				
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17 時～18 時				

科目名	作業療法科学特論Ⅰ		
科目責任者	伊藤 信寿		
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester		
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる		
科目概要	作業療法の実践、教育、研究の基盤となる作業療法諸理論について、その概念枠組み、評価法、実践的研究等について学ぶ。		
到達目標	・作業療法の核となる概念を学ぶ ・主要な理論を学ぶ ・先人の研究を購読し、概念や理論を理解する		
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>
	第1回：作業療法と作業科学の歴史		伊藤信寿
	第2回：作業の意味		伊藤信寿
	第3回：作業の視点、作業的存在、作業的構成		鈴木達也
	第4回：作業科学の臨床への応用		鈴木達也
	第5回：身体領域作業療法の理論基盤と作業的視点(1)		泉 良太
	第6回：身体領域作業療法の理論基盤と作業的視点(2)		佐野哲也
	第7回：精神障害作業療法の理論基盤と作業的視点(1)		新宮尚人
	第8回：精神障害作業療法の理論基盤と作業的視点(2)		藤田さより
	第9回：精神障害作業療法の理論基盤と作業的視点(3)		藤田さより
	第10回：高齢期作業療法の理論基盤と作業的視点(1)		鈴木達也
	第11回：発達領域作業療法の理論基盤と作業的視点(2)		伊藤信寿
	第12回：発達領域作業療法の理論基盤と作業的視点(1)		伊藤信寿
	第13回：発達領域作業療法の理論基盤と作業的視点(2)		伊藤信寿
	第14回：作業科学の研究から明らかになっていること	ゲストスピーカー	田島明子
	第15回：作業科学の研究から明らかになっていること	ゲストスピーカー	田島明子
	*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第5回～第13回 実務家教員や実務家による授業：第1回～第4回、第14回～第15回		

学修方法	講義、ディスカッション、レジュメ作成、発表				
評価方法	授業・ディスカッションへの参加（発言内容・論理性・量・態度）：50% 発表とレジュメ：25% レポート：25%				
課題に対するフィードバック	ディスカッションとレポートにて、自分の研究疑問を深めるようにコメントが与えられる				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	教科書、参考書、資料等を読み、レジュメにまとめる				
オフィスアワー	所属学：リハビリテーション科学研究科 研究室：研究室：3514 時間等：時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法科学特論Ⅱ
科目責任者	鈴木 達也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	作業療法専門職の実践、教育、研究の基盤となる作業療法諸理論について、その概念枠組み、評価法、実践的研究等について学ぶ。
到達目標	1. 受講者が近年の作業療法科学の知識・理論の進歩について説明出来る 受講者がクライアントの作業的問題を捉え分析、評価できる 受講者が OT として作業的存在としてクライアントを捉えることの重要性を理解する
授業計画	< 授業内容・テーマ等 > < 担当教員名 > 第 1 回：作業療法実践における作業科学(1) 鈴木達也 第 2 回：作業療法実践における作業科学(2) 鈴木達也 第 3 回：作業科学：作業療法の必須要件 藤田さより 第 4 回：作業の可能化 藤田さより 第 5 回：作業科学と健康関連 QOL 泉 良太 第 6 回：作業的視点に焦点化した研究論文の検討(1) 新宮尚人 第 7 回：作業的視点に焦点化した研究論文の検討(2) 鈴木達也 第 8 回：作業的視点に焦点化した研究論文の検討(3) 佐野哲也 第 9 回：作業療法理論における研究手法(1) 鈴木達也 第 10 回：作業療法理論における研究手法(2) 藤田さより 第 11 回：作業療法理論における研究手法(3) 伊藤信寿 第 12 回：作業療法理論に関する研究動向(1) 鈴木達也 第 13 回：作業療法理論に関する研究動向(2) 伊藤信寿 第 14 回：作業的存在 ゲストスピーカー 吉川ひろみ 第 15 回：作業的存在 (2) ゲストスピーカー 吉川ひろみ *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 6～8 回 実務家教員や実務家による授業：第 1～5 回、第 9-15 回

学修方法	講義、グループディスカッション、グループワーク、発表				
評価方法	授業・ディスカッションへの参加（発言内容・論理性・量・態度）：50％ 発表とレジュメ：25％ レポート：25％				
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント、返却				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【第2版】 「作業」って何だろう 作業科学入門	吉川ひろみ／著	医歯薬出版	2800	9784263216675	1
事前・事後学修	教科書、参考書、資料等を読み、レジュメにまとめる				
オフィスアワー	所属学：リハビリテーション科学研究科 研究室：研究室：3502 時間等：時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法科学特論演習
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2 単位(30 時間) 選択 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら探索し、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。 (6) 他の専門職者、研究者や学生との連携・協働し、リーダーシップを発揮して課題解決に取り組むことができる。
科目概要	これまでに学んだ研究方法論を知識基盤とし、研究テーマを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究デザインを作成することを目指す。
到達目標	1. 研究テーマに関する保健医療福祉の付随的課題と治療・介入戦略について説明出来る 2. 研究テーマにおける介入効果の検証、新たな治療・介入連略への構築など、より高いレベルの研究デザインを作成することができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 伊藤信寿、新宮尚人、泉良太、藤田さより、佐野哲也、鈴木達也 関心をもつ研究テーマについて、文献検索、内容について簡単なレジュメを作成して紹介し、ディスカッションする。さらに、各領域における関心のある研究テーマについて、研究デザインを作成、検討する。 第1回. コースオリエンテーション 第2回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読1 第3回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読2 第4回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読3 第5回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読4 第6回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読5 第7回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討1 第8回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討2 第9回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討3 第10回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討4 第11回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討5 第12回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討6 第13回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討7 第14回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討8 第15回. 全体のまとめ ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回
学修方法	研究テーマに沿った文献（原則として英文）を読み、履修学生が発表者となり、レジュメを作成して紹介する。
評価方法	文献抄読のレジュメの作成（25%）と、報告（25%）、研究デザインの作成（50%）により評価する
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。
指定図書	

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・ 事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。				
オフィス アワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3514 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法開発学特論Ⅰ																														
科目責任者	新宮 尚人																														
単位数他	2 単位(30 時間) 選択 春semester																														
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる																														
科目概要	作業療法関連領域における最新の研究動向に触れ、臨床における解決すべき課題について検討する。また研究論文の精読を通じて、研究疑問をどのように検証可能な形で表現するか、データに基づく分析とはどのようなものか、研究の基本的要素について理解することを目指す。																														
到達目標	1. 関心のある分野における研究動向や研究課題について説明できる 2. 各領域における研究課題について、検証方法、分析方法を説明、作成できる。																														
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 担当教員：新宮尚人、伊藤信寿、泉良太、藤田さより、佐野哲也、鈴木達也 教員より各専門領域における最新の研究動向について概説する。履修生は、それを踏まえ関連する国内・外の文献を読み、内容について簡単なレジュメを作成して紹介する。文献を通じて、研究疑問の操作定義、データ収集と分析方法、結果の記述と解釈など、研究論文の基本的構成要素を理解することで自身の研究計画立案の足がかりとする。 ※少なくとも3文献を紹介する。 履修生の専門性・関心により文献選択の相談に応じる。 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> <table border="0"> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション</td><td>新宮尚人</td></tr> <tr> <td>第2回：研究疑問と研究デザイン</td><td>新宮尚人</td></tr> <tr> <td>第3回：精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td><td>新宮尚人</td></tr> <tr> <td>第4回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討</td><td>藤田さより</td></tr> <tr> <td>第5回：発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td><td>伊藤信</td></tr> <tr> <td>第6回：作業科学・作業療法理論における最新の研究動向について</td><td>鈴木達也</td></tr> <tr> <td>第7回：身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第8回：身体障害リハビリテーションにおける量的・質的研究</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第9回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第10回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第11回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討</td><td>佐野哲也</td></tr> <tr> <td>第12回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討</td><td>佐野哲也</td></tr> <tr> <td>第13回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討</td><td>佐野哲也</td></tr> <tr> <td>第14回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討</td><td>佐野哲也</td></tr> <tr> <td>第15回：全体のまとめ</td><td>新宮尚人</td></tr> </table> ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回	第1回：コースオリエンテーション	新宮尚人	第2回：研究疑問と研究デザイン	新宮尚人	第3回：精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	新宮尚人	第4回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	藤田さより	第5回：発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	伊藤信	第6回：作業科学・作業療法理論における最新の研究動向について	鈴木達也	第7回：身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	泉 良太	第8回：身体障害リハビリテーションにおける量的・質的研究	泉 良太	第9回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	泉 良太	第10回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	泉 良太	第11回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也	第12回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也	第13回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也	第14回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也	第15回：全体のまとめ	新宮尚人
第1回：コースオリエンテーション	新宮尚人																														
第2回：研究疑問と研究デザイン	新宮尚人																														
第3回：精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	新宮尚人																														
第4回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	藤田さより																														
第5回：発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	伊藤信																														
第6回：作業科学・作業療法理論における最新の研究動向について	鈴木達也																														
第7回：身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	泉 良太																														
第8回：身体障害リハビリテーションにおける量的・質的研究	泉 良太																														
第9回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	泉 良太																														
第10回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	泉 良太																														
第11回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也																														
第12回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也																														
第13回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也																														
第14回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也																														
第15回：全体のまとめ	新宮尚人																														

学修方法	講義、ディスカッション、報告を中心に進める				
評価方法	発表内容（80％）と、ディスカッションへの参加状況（20％）により評価する				
課題に対するフィードバック	課題の報告後に、フィードバックを行う				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業内で適宜紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：オリエンテーション時に、各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3501 もしくはリハビリテーション学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法開発学特論Ⅱ		
科目責任者	泉 良太		
単位数他	2 単位(30 時間) 選択 秋セメスター		
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる		
科目概要	作業療法関連領域における最新の研究動向に触れ、臨床における解決すべき課題について検討する。さらに関心をもつ研究テーマ、研究課題について、データに基づく分析方法を学び、研究計画立案の足掛かりにすることを目指す。		
到達目標	1. 文献レビューに基づき、関心のある分野における研究課題について述べることができる。 2. 関心領域の研究課題について、研究デザイン、データ収集方法、分析方法など、研究計画書の作成に向けて必要な要件を説明できる。		
授業計画	担当教員：泉良太、新宮尚人、伊藤信寿、藤田さより、佐野哲也、鈴木達也		
	春セメスターで身に付けた文献レビューの方法を踏まえ、システムティックレビューやエビデンスレベルの高い文献を紹介する。文献を通じて、アウトカムに応じた研究デザイン、データ収集方法、分析方法は何かを理解することを目指す。なお、質的研究の場合はこの限りではない。		
	※少なくとも3文献を紹介し、そのうち2本は海外の文献（英語）とする。		
	履修生の専門性・関心により文献選択の相談に応じる。		
	<授業内容・テーマ等>		
	担当教員名>		
	第1回：コースオリエンテーション	泉 良太	
	第2回：身体障害リハビリテーションにおける量的・質的研究	泉 良太	
	第3回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	泉 良太	
	第4回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也	
	第5回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也	
	第6回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	佐野哲也	
	第7回：精神障害リハビリテーションにおけるエビデンスについて	新宮尚人	
	第8回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	新宮尚人	
	第9回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	新宮尚人	
第10回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討	藤田さより		
第11回：発達障害リハビリテーションにおけるエビデンスについて	伊藤信寿		
第12回：高齢期障害リハビリテーションにおけるエビデンスについて	鈴木達也		
第13回：作業療法領域における統計解析と医療経済学的分析について（ピーカー）	長山洋史（ゲストスピーカー）		
第14回：作業療法領域における統計解析と医療経済学的分析について（ピーカー）	長山洋史（ゲストスピーカー）		
第15回：全体のまとめ	泉 良太		
＊この科目は「実践的な方法による授業」である。			
双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回			
実務家教員や実務家による授業：第2～15回			

学修方法	講義、ディスカッション、報告を中心に進める				
評価方法	発表内容（80％）と、ディスカッションへの参加状況（20％）により評価する				
課題に対するフィードバック	課題の報告後に、フィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：オリエンテーション時に、各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3414 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法開発学特論演習
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	2 単位(30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	精神障害作業療法における評価とアプローチ法についての文献（特に事例を含むもの）を精読することで、精神障害作業療法領域の課題を見出し研究へと応用できることを目標とする。研究計画書の作成に向けて、先行研究を吟味・検討した上で、具体的な研究テーマの設定、研究計画の立案を行う。
到達目標	・ 障害の特性を踏まえた基本的な研究プロセスについて説明できる ・ 研究計画書の作成に必要な要素を説明できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 担当教員：新宮尚人、伊藤信寿、泉 良太、藤田さより、佐野哲也、鈴木達也 ※授業日程は、受講者との相談の上、決定する 研究テーマに関連した論文を精読することにより、研究到達度の確認と研究目的に対する方法を吟味する。これらを通じて具体的な研究計画書を作成し、データ収集の経過報告、データ分析、修士論文の執筆までを行う。計画書の作成後は、主として個別指導の形で進める。 ※授業日程は、受講者との相談の上、決定する 第 1 回：コースオリエンテーション 第 2 回：研究計画立案方法について 第 3 回：研究プロセスとアウトカムについて 第 4 回：評価尺度の信頼性と妥当性 第 5 回：調査票の作成と予備研究 第 6 回：データ収集方法について 第 7 回：データ分析方法について 第 8 回：報告および論文作成の基本的知識 第 9 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 10 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 11 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 12 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 13 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 14 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 15 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング ※この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 2～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 2～15 回

学修方法	自身の興味に関連した論文を精読し、研究方法（対象、手続き、評価尺度、分析方法など）を吟味することを通じて、具体的な研究計画書を作成します。				
評価方法	計画書の完成度（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する				
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業内で適宜紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：新宮が窓口となる。3501 研究室もしくはリハビリテーション学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法学特別研究
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	8 単位 (120 時間) 選択 通年
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 7. 学際かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる
科目概要	修士論文を作成するために必要な作業療学分野の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる
授業計画	1 年次春semester : <授業内容・テーマ等> リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。 <評価方法> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%) 1 年次秋semester : <授業内容・テーマ等> 春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。 <評価方法> 発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%) 2 年次春semester : <授業内容・テーマ等> 研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。 <評価方法> 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%) 2 年次秋semester : <授業内容・テーマ等> 指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。 <評価方法> 論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の適切性 (30%) *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回

学修方法	ディスカッション、発表を通して行う				
評価方法	上記に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。				
課題に対するフィードバック	口頭によるコメント、書面提出物についてはコメントを記載し迅速にフィードバックする				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	随時指定				
オフィスアワー	初回授業時に提示しますが、提示の時間以外でもメールでアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法教育学課題研究
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	8 単位 (120 時間) 選択 通年
科目の位置付	新規性の高い研究課題を自ら発見し、先行研究をレビューし、独創的な研究テーマを設定して、自立して研究計画を立案することができる
科目概要	作業療法士教育の卒前卒後の教育における問題点を明らかにし、より良い教育を構築し、教育手法・カリキュラムを客観的に評価し検討することで、意味のある学びを提案する事ができる能力を学習します。これにより、卒前・卒後・生涯教育の管理・計画・運営に関与し、それぞれの施設で専門家としての力を発揮できる力を育成いたします。 本科目の学修のプロセスは、①作業療法士の養成校教育・臨床教育の現場が抱える問題点を抽出したり、問題点の改善を目的とした改善策を提案・実践したりする、②「指導教官に指導を受け教育学課題研究報告書を作成する、③教育学課題研究報告書の内容を報告会で発表する。
到達目標	1. 教育課題研究を行う。 2. 教育学課題研究報告書を作成する。 3. 教育学課題研究報告書の内容を報告会で発表する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 伊藤信寿、泉 良太 第1-2回：オリエンテーション 指導教員 第3-4回：課題研究の検討・先行研究の検索および整理(1) 指導教員 第5-6回：課題研究の検討・先行研究の検索および整理(2) 指導教員 第7-8回：フィールドリサーチ(1) 指導教員 第9-10回：フィールドリサーチ(2) 指導教員 第11-12回：フィールドリサーチ(3) 指導教員 第13-14回：フィールドリサーチ(4) 指導教員 第15-16回：教育学課題研究計画書の作成(1) 指導教員 第17-18回：教育学課題研究計画書の作成(2) 指導教員 第19-20回：教育現場での課題研究の実践(1) 指導教員 第21-22回：教育現場での課題研究の実践(2) 指導教員 第23-24回：教育現場での課題研究の実践(3) 指導教員 第25-26回：報告書作成の指導(1) 指導教員 第27-28回：報告書作成の指導(2) 指導教員 第29-30回：報告書作成の指導(3) 指導教員 *個別指導と院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。 2コマ/回とする。 *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第3回～6回、第15～30回 実務家教員や実務家による授業：第3回～6回、第15～30回 実地での体験活動を伴う授業：第7～14回

学修方法	授業では講義とディスカッション、教育現場での実践活動をもとに進めます。				
評価方法	課題への取り組みと発表（90%）、ディスカッションへの参加状況（10%）				
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や報告書作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	言語聴覚障害学特論Ⅰ
科目責任者	大原 重洋
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	言語獲得前の聴覚障害によって言語、心理、社会的課題が子どもに生ずる機序について、体系的に学び、専門的知識を深めることを目標とする。
到達目標	1. 言語聴覚障害学に関する主要な理論と新しい知見を体系的に理解する。 2. 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる
授業計画	≪担当教員≫大原 重洋(第1～5回) 小坂美鶴(第6～10回) 黒崎芳子(第11～15回) <授業内容・テーマ等> 大原 重洋(第1～5回) 第1回：オリエンテーション・小児聴覚障害学の分析方法 第2回：変数の設定と統計解析法 統計ソフト R を用いた分析① 第3回：変数の設定と統計解析法 統計ソフト R を用いた分析② 第4回：言語音の音響分析法 音響分析ソフト Praat を用いた分析① 第5回：言語音の音響分析法 音響分析ソフト Praat を用いた分析① 小坂美鶴(第6～10回) 第6回：言語発達心理学の研究デザインの紹介 第7回：言語発達心理学の研究デザインの検討 第8回：言語発達障害の研究デザインの紹介 第9回：言語発達障害の研究デザインの検討① 第10回：言語発達障害の研究デザインの検討② 黒崎芳子(第11～15回) 第11回：失語症・高次脳機能障害の評価・治療と研究デザインの紹介 第12回：失語症・高次脳機能障害の評価・治療と研究デザインの検討① 第13回：失語症・高次脳機能障害の評価・治療と研究デザインの検討② 第14回：失語症・高次脳機能障害の評価・治療と研究デザインの検討③ 第15回：失語症・高次脳機能障害の評価・治療と研究デザインの検討④ ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回

学修方法	講義、発表、討論				
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・発表・レポート 70%				
課題に対するフィードバック	授業内容についての疑問点については、その場でフィードバックする。発表資料、レポートについては、資料を校閲し返却する。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	指定した文献を読んで、内容と疑問点を纏める。				
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。				

科目名	言語聴覚障害学特論Ⅱ																																
科目責任者	谷 哲夫																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター																																
科目の位置付	リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる																																
科目概要	失語症学およびその治療法に関して最新の理論を含め総合的な理解と知識の体系化を図ります。高次脳機能障害や認知症の症状、臨床とリハビリテーションについて理解と知識の体系化を図ります。また、実践的な医療技術や研究方法の修得を行うとともに、新たな評価や治療方法の開発について研究し、失語症学分野および高次脳機能障害や認知症における高度な臨床技術の実践や科学的研究のできる人材の育成を目指します。																																
到達目標	失語症学、高次脳機能障害や認知症に関する新知見を体系的に理解する。 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる。																																
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 谷哲夫・黒崎芳子・藤本礼尚・山添知宏 <table><tr><td>第 1 回：オリエンテーション</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 2 回：さまざまな言語症状について</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境</td><td>谷 哲夫</td></tr><tr><td>第 9 回：様々な高次脳機能障害について</td><td>谷哲夫</td></tr><tr><td>第 10 回：記憶障害の症状と診断</td><td>谷哲夫</td></tr><tr><td>第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション</td><td>谷哲夫</td></tr><tr><td>第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断</td><td>藤本礼尚</td></tr><tr><td>第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション</td><td>藤本礼尚</td></tr><tr><td>第 14 回：認知症研の症状と診断</td><td>山添知宏</td></tr><tr><td>第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション</td><td>山添知宏</td></tr></table> *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15 回 実務家教員や実務家による授業：第2～15 回			第 1 回：オリエンテーション	谷 哲夫	第 2 回：さまざまな言語症状について	谷 哲夫	第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用	谷 哲夫	第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用	谷 哲夫	第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用	谷 哲夫	第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究	谷 哲夫	第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果	谷 哲夫	第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境	谷 哲夫	第 9 回：様々な高次脳機能障害について	谷哲夫	第 10 回：記憶障害の症状と診断	谷哲夫	第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション	谷哲夫	第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断	藤本礼尚	第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション	藤本礼尚	第 14 回：認知症研の症状と診断	山添知宏	第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション	山添知宏
第 1 回：オリエンテーション	谷 哲夫																																
第 2 回：さまざまな言語症状について	谷 哲夫																																
第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用	谷 哲夫																																
第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用	谷 哲夫																																
第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用	谷 哲夫																																
第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究	谷 哲夫																																
第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果	谷 哲夫																																
第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境	谷 哲夫																																
第 9 回：様々な高次脳機能障害について	谷哲夫																																
第 10 回：記憶障害の症状と診断	谷哲夫																																
第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション	谷哲夫																																
第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断	藤本礼尚																																
第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション	藤本礼尚																																
第 14 回：認知症研の症状と診断	山添知宏																																
第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション	山添知宏																																

学修方法	講義および討論				
評価方法	授業参加状況 30% 文献抄読・レポート 70%				
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う				
指定図書	なし。 授業の中で適宜紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし。 授業の中で適宜紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	資料の事前配布 教科書の予習 授業の中で適宜指示する				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 谷 哲夫：3406 研究室 毎週火曜日 Ⅲ限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	言語聴覚障害学特論演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	・リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる ・研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる ・他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案を行う
到達目標	1. 各種研究法を理解する 2. 客観的な文献レビューができる 3. データの収集、および分析方法について知識を深める
授業計画	<担当教員名> 谷 哲夫, 柴本勇, 小坂美鶴, 大原重洋, 黒崎芳子 <授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：研究計画立案までの手順について 第 3 回：研究方法について 第 4 回：データ収集方法について 第 5 回：データの分析方法について 第 6 回～15 回：研究計画立案に向けたディスカッション *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 2～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 2～15 回

学修方法	講義および討論（遠隔可）				
評価方法	計画書の完成度 90% 主体的参加状況 10%				
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う				
指定図書	なし。 授業の中で適宜紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし。 授業の中で適宜紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	指定図書を事前に読んで理解する				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 谷 哲夫：3406 研究室 毎週火曜日 III限 （tetsuo-t@seirei.ac.jp） 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	摂食嚥下障害学特論Ⅰ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	摂食嚥下障害学と発声発語障害における新しい理論や病態について体系的に学ぶと共に、専門知識をさらに深めることを目標とする。文献抄読と討論を中心に進める。
到達目標	1. 摂食嚥下障害に関する最新知見を説明できる。 2. 発声発語障害に関する最新知見を説明できる 3. 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 担当教員：柴本 勇、佐藤豊展、重松 孝 第1回：オリエンテーション 第2回：摂食嚥下メカニズム 第3回：摂食嚥下の神経制御機構 第4回：摂食嚥下機能の発達 第5回：摂食嚥下の評価理論 第6回：摂食嚥下障害の病態 第7回：老化と嚥下障害 第8回：医原性嚥下障害 第9回：発声発語メカニズムと神経制御機構 第10回：発声発語機能の発達 第11回：発声発語の評価理論 第12回：発声発語障害の病態と訓練法 第13回：文献抄読、発表、ディスカッション 第14回：文献抄読、発表、ディスカッション 第15回：文献抄読、発表、ディスカッション *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	グループ学習や Webclass 等を用いて学修を行います。 毎回：トピックについての文献抄読、発表、討論を行います。 遠隔システムを用いた学修も可能。				
評価方法	授業内容の理解（口頭試問） 30%、文献抄読・発表・レポート 70%				
課題に対するフィードバック	講義資料や文献を読み、疑問点についてディスカッションします。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	文献を読んで、まとめてくること。				
オフィスアワー	各教員個別に設定します。メールでの相談は随時受け付けます。				

科目名	摂食嚥下障害学特論Ⅱ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	摂食嚥下障害学および発声発語障害学における評価および治療理論について体系的に学ぶと共に、専門知識をさらに深めることを目標とする。文献抄読と討論を中心に進める。
到達目標	1. 摂食嚥下障害に関する最新知見を体系的に理解し説明できる。 2. 発声発語障害に関する最新知見を体系的に理解し説明できる。 3. 文献抄読や討論を通して、専門的な思考を身につけることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 担当教員：柴本 勇、佐藤豊展 第1回：オリエンテーション 第2回：摂食嚥下障害の治療戦略 第3回：摂食嚥下障害の治療理論 第4回：運動学習理論の治療応用 第5回：神経筋促通理論と治療応用 第6回：神経筋刺激訓練（電気刺激法・磁気刺激法） 第7回：発声発語障害の治療戦略 第8回：発声発語障害の治療理論 第9回：摂食嚥下障害治療への工学の応用（ゲストスピーカー） 第10回：発声発語障害治療への工学の応用（ゲストスピーカー） 第11回：コミュニケーション障害と工学（ゲストスピーカー） 第12回：人工知能とリハビリテーション工学（ゲストスピーカー） 第13回：文献抄読、発表、討論（摂食嚥下障害） 第14回：文献抄読、発表、討論（発声障害） 第15回：摂食嚥下・発声発語リハビリテーションと倫理 *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	グループ学習やWebclass等を用いて学修を行います。 文献抄読、発表、討論を通じて学びます。 遠隔システムを用いた学修も可能です。				
評価方法	講義理解（口頭試問）30%、文献抄読・発表・レポート 70%				
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業の予習・文献詳読・症例検討				
オフィスアワー	各教員が個別に設定します。メールでの相談は随時受け付けます。				

科目名	摂食嚥下障害学特論演習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の 位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案をおこなう。
到達目標	1. 各種研究法を理解し説明できる。 2. 客観的な文献レビューができる。 3. 研究計画を立案できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 担当教員：柴本 勇、佐藤豊展 第1回：オリエンテーション 第2回：研究計画立案までの手順について 第3回：研究方法について 第4回：データの収集方法について 第5回：データの分析方法について 第6回—15回：研究計画立案に向けたディスカッション ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	グループ学習やWebclass等を用いて学修を行います。 遠隔システムを用いた学修も可能。				
評価方法	計画書の完成度（８０％）と、ディスカッション内容（２０％）により評価する。				
課題に対するフィードバック	講義、文献を読み、疑問点についてディスカッションします。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	予習・文献詳読				
オフィスアワー	各教員が個別に設定します。メールでの相談は随時受け付けます。				

科目名	言語聴覚学特別研究
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	8 単位数 (120 時間) 通年
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	修士論文を作成するために必要な言語聴覚学分野の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる
授業計画	<担当教員> 谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、大原重洋、黒崎芳子、佐藤豊展 1 年次春semester： <授業内容・テーマ等>リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。 <評価方法>討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%) 1 年次秋semester： <授業内容・テーマ等>春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。 <評価方法>発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%) 2 年次春semester： <授業内容・テーマ等>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。 <評価方法>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%) 2 年次秋semester： <授業内容・テーマ等>指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。 <評価方法>論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の貞節性 (30%) *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回

学修方法	ディスカッション、発表を通して行う				
評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。				
課題に対するフィードバック	口頭によるコメント、書面提出物についてはコメントを記載し迅速にフィードバックする				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	随時指定				
オフィスアワー	初回授業時に呈示				

科目名	言語聴覚教育学課題研究
科目責任者	柴本 勇
単位数他	8 単位 (120 時間) 選択 通年
科目の位置付	新規性の高い研究課題を自ら発見し、先行研究をレビューし、独創的な研究テーマを設定して、自立して研究計画を立案することができる
科目概要	言語聴覚教育が直面している問題点を明らかにしたり、問題点の改善を目的とした解決策を提案・実践したりすることで、教育が抱える問題点に対応できる能力を育成する。本科目の学修のプロセスは、①言語聴覚士の養成校教育・臨床教育の現場が抱える問題点を抽出したり、問題点の改善を目的とした改善策を提案・実践したりする、②「指導教員に指導を受け教育学課題研究報告書を作成する、③教育学課題研究報告書の内容を報告会で発表する。
到達目標	1. 教育課題研究を行う。 2. 教育学課題研究報告書を作成する。 3. 教育学課題研究報告書の内容を報告会で発表する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 柴本 勇、佐藤豊展 第1-2回：オリエンテーション 指導教員 第3-4回：課題研究の検討・先行研究の検索および整理(1) 指導教員 第5-6回：課題研究の検討・先行研究の検索および整理(2) 指導教員 第7-8回：フィールドリサーチ(1) 指導教員 第9-10回：フィールドリサーチ(2) 指導教員 第11-12回：フィールドリサーチ(3) 指導教員 第13-14回：フィールドリサーチ(4) 指導教員 第15-16回：教育学課題研究計画書の作成(1) 指導教員 第17-18回：教育学課題研究計画書の作成(2) 指導教員 第19-20回：教育現場での課題研究の実践(1) 指導教員 第21-22回：教育現場での課題研究の実践(2) 指導教員 第23-24回：教育現場での課題研究の実践(3) 指導教員 第25-26回：報告書作成の指導(1) 指導教員 第27-28回：報告書作成の指導(2) 指導教員 第29-30回：報告書作成の指導(3) 指導教員 *個別指導と院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。 2コマ/回とする。 *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第3回～6回、第15～30回 実務家教員や実務家による授業：第3回～6回、第15～30回 実地での体験活動を伴う授業：第7～14回

学修方法	授業では講義とディスカッション、教育現場での実践活動をもとに進めます。				
評価方法	課題への取り組みと発表（90%）、ディスカッションへの参加状況（10%）				
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や報告書作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。				
オフィスアワー	オリエンテーション時に提示します。				

科目名	高度実践リハビリテーション特論Ⅰ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	高度臨床実践を実践できるよう、現状のリハビリテーション領域について知識、評価・治療について学ぶ。
到達目標	1. 各プログラムの臨床を説明できる 2. 各プログラムに最新治療を説明できる 3. 自身が経験した事例を説明できる 4. 自身の臨床技能を高める方法を説明できる
授業計画	担当教員：柴本勇、俵 祐一、大城昌平、伊藤信寿、金原一宏、根地島誠 <授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：新生児リハビリテーションの臨床知識と臨床技能 第 3 回：摂食嚥下リハビリテーション臨床知識と臨床技能 第 4 回：発達障害リハビリテーション臨床知識と臨床技能 第 5 回：疼痛科学リハビリテーション臨床知識と臨床技能 第 6 回：スポーツリハビリテーション臨床知識と臨床技能 第 7 回：内部障害リハビリテーション臨床知識と臨床技能 第 8 回：まとめ ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 2～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 2～15 回

学修方法	講義と事例検討				
評価方法	ディスカッション（30%）、事例検討（50%）、レポート課題（20%）				
課題に対するフィードバック	授業内でフィードバックを行う				
指定図書	なし（各講師から適宜資料を提供する）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	各講師から適宜資料を提供する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の臨床経験をまとめる(事前・事後)				
オフィスアワー	初回講義時に提示する				

科目名	高度実践リハビリテーション特論Ⅱ
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	リハビリテーションを専門的に実践するための、最新知識と最新治療技術について学ぶ。高度実践リハビリテーションコースの各プログラムの最新トピックについて学ぶ。
到達目標	1. 各プログラムの臨床を説明できる 2. 各プログラムに最新治療を説明できる 3. 自身が経験した事例を説明できる 4. 自身の臨床技能を高める方法を説明できる
授業計画	担当教員：俵 祐一、柴本勇、大城昌平、伊藤信寿、金原一宏、根地島誠 <授業内容・テーマ等> 第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 新生児リハビリテーション臨床と最新治療 第 3 回： 摂食嚥下リハビリテーション臨床と最新治療 第 4 回： 発達障害リハビリテーション臨床と最新治療 第 5 回： 疼痛科学リハビリテーション臨床と最新治療 第 6 回： スポーツリハビリテーション臨床と最新治療 第 7 回： 内部障害リハビリテーション臨床と最新治療 第 8 回： 事例検討（1） 第 9 回： 事例検討（2） 第 10 回： 事例検討（3） 第 11 回： 事例検討（4） 第 12 回： 事例検討（5） 第 13 回： 臨床実践の発展と修得 第 14 回： リハビリテーション臨床の最新トピック 第 15 回： まとめ ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 2～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 2～15 回

学修方法	講義と事例検討を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行う。				
評価方法	ディスカッション（30%）、事例検討（50%）、レポート課題（20%）				
課題に対するフィードバック	授業内またはLMS ツール内でフィードバックを適宜行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事例検討の事前準備が必要				
オフィスアワー	オリエンテーション時に提示します。				

科目名	高度実践リハビリテーション実習Ⅰ
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の問題解決に取り組むことができる。
科目概要	専門科目で学んだ高度実践リハビリテーションの知識を基盤とし、臨床現場での実践的な学びを通じて、対象となる患者（利用者）に対する高度な専門知識の習得と技能の実践を深める。
到達目標	・各疾患・障害に対する最新のリハビリテーション技術やエビデンスに基づく介入方法を理解し、適切に適用できる。 ・評価から治療までの一連のプロセスを臨床現場で実践し、患者（利用者）への最適な介入を実施できる。 ・臨床実践において、評価結果を基に適切な臨床推論を行い、患者（利用者）の個性に応じたリハビリテーション計画を立案・実施できる。
授業計画	担当教員：伊藤信寿、柴本勇、大城昌平、金原一宏、根地島誠、俵祐一 <授業内容・テーマ等> 第1回 実習オリエンテーション：実習の目的・進め方の理解、倫理・安全管理の確認 第2回 患者評価の実践：診療録の確認、評価方法の選択・実施、評価結果の分析 第3回 治療計画の立案：エビデンスに基づく計画作成 第4回 治療計画の実施：計画の実践と修正① 第5回 治療計画の実施：計画の実践と修正② 第6回 治療計画の実施：計画の実践と修正③ 第7回 臨床推論の強化：評価結果を踏まえた適切な治療選択、経過のモニタリング 第8回 多職種連携の実践：チームカンファレンスへの参加・発言、他職種との協働① 第9回 多職種連携の実践：チームカンファレンスへの参加・発言、他職種との協働② 第10回 専門技術の応用：高度な治療技術の実践① 第11回 専門技術の応用：高度な治療技術の実践② 第12回 専門技術の応用：高度な治療技術の実践③ 第13回 症例報告の作成 第14回 実習成果の発表：発表、学びの振り返り 第15回 実習成果の発表：学びの振り返り 上記内容を臨床現場にて担当教員または臨床指導者とともに実施していく。 この科目は「実践的な方法による授業」である 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第13回～第15回 実務家教員や実務家による授業：第1回～第3回、第7回～第9回 実地での体験活動を伴う授業：第4回～第6回、第10回～第12回

学修方法	クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態を基本に、専門的技術の実習を行う。 指導者とディスカッションを行いながら、対象者の問題解決を検討する。				
評価方法	臨床実践能力（50%）、多職種連携・コミュニケーション（25%）、実習成果の発表・振り返り（25%）				
課題に対するフィードバック	担当教員より実習の進行や学修方法，目標設定に関する確認とフィードバックを適宜行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	対象患者（利用者）に対する事前準備および事後の振り返りを行う				
オフィスアワー	オリエンテーション時に提示します。				

科目名	高度実践リハビリテーション実習Ⅱ
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	(6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の問題解決に取り組むことができる。
科目概要	高度臨床実践に係る知識や臨床実践方法を学んだ上で、臨地において臨床方法を学ぶ。観察・評価・訓練・管理・治療テクニックなど多角的な対応を実践する。
到達目標	1. 臨床評価が多角的にできる 2. 最新の臨床訓練をプログラムし実行できる 3. 臨床管理ができる 4. 最新テクニックを臨床で活用できる
授業計画	担当教員：根地島誠、柴本勇、大城昌平、俵 祐一、伊藤信寿、金原一宏 1 回：オリエンテーション 2～14 回 各プログラムで臨床実習を行う 15：まとめ ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 2～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 2～15 回 実地での体験活動を伴う授業：第 2～15 回

学修方法	臨地で臨床実践をする.				
評価方法	臨地での実践 : 80%, レポート : 20%				
課題に対するフィードバック	プログラム担当者が臨地にて都度フィードバックを行う.				
指定図書	なし (必要に応じてプログラム担当者から資料を提供する)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし (必要に応じてプログラム担当者から資料を提供する)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	プログラム担当者との間で準備や事後振り返りなどを行う.				
オフィスアワー	初回講義時に提示する				

科目名	高度実践リハビリテーション実習Ⅲ
科目責任者	金原 一宏
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の問題解決に取り組むことができる。
科目概要	疾患・障害とともに生活する患者・家族に対して、高度実践リハビリテーション専門職として高い倫理観をもち、高度な専門的知識・技術および適確な臨床判断に基づいた質の高いリハビリテーションを提供する能力を養う。
到達目標	1. 複雑かつ多様な問題を抱える患者に対して、各分野のアセスメントに基づき専門的知識と適確な判断・技術をもちいた質の高い治療介入を実践する。 2. 高度実践リハビリテーション専門職として求められる役割（実践、教育、研究）を理解し、実施・評価する。 3. 高度実践リハビリテーション専門職の役割を実践することを通して、高度実践リハビリテーション専門職として質の高いリハビリテーションを提供する能力を養う。
授業計画	<担当教員名> 金原一宏、大城昌平、柴本勇、伊藤信寿、根地嶋誠、俵祐一 <授業内容・テーマ等> 1) セラピストが行っている複雑な問題を抱えた事例へのリハビリテーションの見学・模倣・実施を通して、その内容を整理しその意味について考察する。 2) 関心領域の臨床現場において、身体的・心理的・社会的等の複雑かつ多様な問題を抱えている患者の評価を行い、臨床推論および治療プログラム等を立案する。指導者による指導を受けながら、医療チームの一員としてリハビリテーション介入を行うとともに、多職種と連携して実践を行う。 3) セラピストとともに行動し、高度実践リハビリテーション専門職として求められる役割（実践、教育、研究）を理解し、自らの能力を踏まえて実施・評価する。 ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回 実地での体験活動を伴う授業：第2～15回
学修方法	指導者との個別指導、課題解決（論文の検索）、臨床現場での実践活動をもとに進めます。

評価方法	1) 各分野での実習取り組み／実習記録等 50% 2) 受け持ち事例におけるプレゼンテーションおよび討議内容 25% 3) レポート（症例報告や文献検討等）25% 実習の到達目標に応じ、総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	各担当教員より、事前学修や実技指導、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習状況を通して、随時フィードバックを行う。また、提出された課題レポートは振り返りの機会を設ける。				
指定図書	各担当教員より適宜、指示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	各担当教員より適宜、指示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	実習前：既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください。 実習中：実習記録およびカンファレンス等におけるプレゼンテーションの作成 実習後：受け持ち事例の事例についての実践レポート				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3506 研究室 日時については調整しますので、メール（kazuhiro-k@seirei.ac.jp）にてご連絡ください。				

科目名	高度実践リハビリテーション課題研究
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	新規性の高い研究課題を自ら発見し、先行研究をレビューし、独創的な研究テーマを設定して、自立して研究計画を立案することができる
科目概要	高度実践リハビリテーションの臨床・教育・研究分野における課題を明確化し、解決策を提案・実践することで、高度専門職としての課題解決能力を育成する。本科目の学修プロセスは、①リハビリテーション分野における臨床実践・教育・研究の現場で直面する課題を抽出し、改善策を立案・実施する、②指導教員の助言を受けながら課題研究報告書を作成する、③課題研究報告書の内容を報告会で発表し、成果を共有・議論する。
到達目標	1. 高度実践リハビリテーションに関する課題研究を行う。 2. 高度実践リハビリテーション課題研究報告書を作成する。 3. 高度実践リハビリテーション課題研究報告書の内容を報告会で発表する。
授業計画	担当教員：俵 祐一、柴本勇、大城昌平、伊藤信寿、金原一宏、根地島誠 <授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション（指導教員） 第2回：研究テーマの検討（指導教員） 第3回：先行研究の検索①（指導教員） 第4回：先行研究の検索②（指導教員） 第5回：研究計画の策定（指導教員） 第6回：研究方法の検討（指導教員） 第7回：フィールドリサーチの準備（指導教員） 第8回：フィールドリサーチ①（指導教員） 第9回：フィールドリサーチ②（指導教員） 第10回：データ分析の基礎（指導教員） 第11回：データ分析の応用（指導教員） 第12回：研究の進捗確認と方向性の調整（指導教員） 第13回：報告書の作成①（指導教員） 第14回：報告書の作成②（指導教員） 第15回：最終報告書の完成・振り返り（指導教員） ＊個別指導と院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。 ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2～15回 実務家教員や実務家による授業：第2～15回

学修方法	授業では講義とディスカッションに加え、臨床現場での実践活動をもとに進める。 研究課題に応じたデータ収集・分析を行い、得られた知見をもとに議論を深め、研究計画の遂行と課題解決能力の向上を図る。				
評価方法	課題への取り組みと発表（90%）、ディスカッションへの参加状況（10%）				
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論に加え、高度実践リハビリテーションにおける倫理や臨床研究の意義について、書籍や論文を通じて学んでください。事後学修は、研究の方法論や報告書作成を復習し、研究成果を的確に伝えるための表現方法を模索してください。				
オフィスアワー	オリエンテーション時に提示します。				